



後を絶たない子どもへの犯罪

市内での不審者情報

子どもを狙った事件が全国で多発する中、県内でも平成21年中に県警本部に寄せられた、子どもに対する声かけ事案などがありました。

そのうち、本市を所管する常総警察署には、不審者に関する

情報が39件寄せられています。

しかし、これはあくまでも認知件数であり、実際に本市内に寄せられた情報は、昨年だけでも18件に上ります。

目撃していても通報していなかった場合も考慮すると、その件数はさらに増加する恐れがあります。

主な不審者事例

事例1

平成21年1月、常総署管内で中学校の女子生徒が自転車で帰宅途中、後ろから車に乗った男に、「10分くらいだから車に乗ってよ。お金あげるから。逃げたら俺追いかけるよ。」と声をかけられた。

事例2

平成21年11月、常総署管内で高校の女子生徒が下校中、男がバイクで近づき「駅まで道を教えて。」と声をかけ、生徒の足を止め、「後ろに乗っていきなよ。」と言って、生徒を抱きかかえるようにしてきた。

いずれの事例も生徒が帰宅する夕方の時間帯に発生しています。

す。県内の事案を見ても、午後から宵のうちにかけて発生していることが多く、不審者は子どもたちの下校、帰宅時を狙っています。

子どもを誘うさまざまな手口

①子どもの好きなもの（誘惑）
子どもが興味を示しそうな物や、うまい話をちらつかせて誘

②緊急事態の演出
家族の事故等を装い、子どもを混乱させて誘い出す手口。

③子どもに助けを求める
道に迷ったなどと話し、子ども

防犯は地域との連携が必要！

インタビュー

常総警察署 生活安全課 係長 警部補 黒澤 克彦さん
市民の安全・安心を第一線で守っている立場から、いろいろなお話を伺いました。

さまざまな関係機関で共有することが大切です。常総署管内では、各小・中学校からの不審者等の情報は常総警察署へ通報され、その後、電子メールやファックスなどで各学校や教育委員会などへ連絡するシステムが構築されています。



小絹小学校（教員）への侵入者対策教習

■警察署の取り組み
警察署のパトカーをはじめ、各地域にある交番のパトカーなどで管内小・中学校の下校ルートをとパトロールし、子どもたちの安全を守っています。

■地域との連携・協力が不可欠
防犯は警察だけの活動では難しいものがあります。犯罪を未然に防ぎ、子どもたちが安心して暮らせるまちにするためには、学校、家庭、行政そして地域が一体となって取り組んでいくという意識が大切です。

情報の共有化が大切

事件の早期解決を図るためには、情報を警察だけではなく、

また、市内すべての小・中学校に刺股が配置されていること

情報の共有はとて大切！

「あなたのお母さんが、突然倒れ救急車で運ばれました。一緒に病院に行こう」「父親の会社の者だけど、お父さんが急に倒れたから、車に乗って」など。